

1. 受験願書

① 受験願書には受験する部門と選択科目を記入する。

試験官は、官僚OBが大半を占める部門・分野、民間系が多い部門・分野など部門と受験科目で異なる。したがって、部門と選択科目を選ぶ時は、なるべくなら自分の普段行なっている業務と同じ系統の試験官が多いところを選ぶ方が無難である。

行政系 建設部門（都市計画及び地方計画）、「河川・砂防及び海岸・海洋」「港湾及び空港」、農業部門（農業土木、農村環境）

コンサル系 建設部門（「土質及び基礎」、「建設環境」）

建設会社系 建設部門（「鋼構造及びコンクリート」、「施工計画・施工設備及び積算」など。同じ系統の人間には不思議と意思が通じるものである。

② 願書の記入心得

受験願書の記入には、口頭試験での体験論文との整合性を考えて記入する。つまり、体験論文と経歴がなるべく合致するように記入するべきである。

以下、記入例を示す。

技術士第二次試験受験申込書

文部科学大臣指定試験機関 社団法人 日本技術士会会長 殿
下記により、技術士第二次試験を受験したいので、申し込めます。

平成 年 月 日

(フリガナ)		受験地	宮城県
氏名	(男 <input checked="" type="checkbox"/> ・女 <input type="checkbox"/>)	技術部門	
生年月日	年 月 日生	選択科目	
本籍地	青森県 都道府県コード 02	専門とする事項	
現住所	〒	総合技術監理部門の受験を申し込む者で、右のいずれかに該当する者は <input type="checkbox"/> に \surd を付すこと	他の技術部門と併願 <input type="checkbox"/> 選択科目が免除 <input type="checkbox"/>
勤務先	勤務先名	最終学歴	学校名
	〒	最終学歴コード	学部学科名
	1	卒業(修了)年月	年 3月

するに \surd を付し、必要事項を記入すること。

技術士第一次試験合格証番号及び合格年月	第 号	平成 年 月
技術士補登録番号及び登録年月日	第 号	年 月 日
技術士法第三十一条の二第二項の規定により文部科学大臣が指定した大学その他の教育機関における専修及び当校課程の修了年月		
学校名	課程	年 月
学校コード	課程コード	

総合技術監理部門の選択科目の免除を受ける場合には、下記の該当する口のいずれかに \surd を付し、必要事項を記入すること。

技術士第二次試験合格証番号又は技術士登録番号	合格年月又は登録年月日	合格した技術部門
<input type="checkbox"/> 合格証番号	第 号	年 月
<input type="checkbox"/> 登録番号	第 号	年 月 日

現場経験が多い人は記入しすぎない。あまり書きすぎると答案用紙に書く時時間が取られすぎるから。

それは、試験開始前に記入する時間が与えられる（5分）が多すぎると6枚の解答用紙に書く時間が試験時間にまで食い込んでしまうから。時間的には大したことはないが結構ストレスになる。

勤務先は部署名まで書く、現場事務所を書くときは（ ）書きでもok

業務経歴票 [証明書]

<small>(フリガナ)</small>							
氏 名		※ 整理番号					
大学院における研究経歴							
大学院名	県						
業務経歴							
勤務先 (都県まで)	所在地 (市町村まで)	地位・ 職名	業務内容	在職期間		年	月
				年・月～年・月	年月数		
							5 0
							4 0
							4 0
							2 0
			職務内容4				2 0

左記の記入で技師や主事等の平職種の場合。技術士法第 2 条で「指導の業務」とあるとおり、業務を主体的に経験したことを示す必要がある。
この場合、〇〇業務の「担当主任として」や「主担として」等でカバーする。

職名は経験当時をそのまま記入する。

例えば、技術的体験論文が災害復旧がテーマであれば、それに関する職務内容を記述する。出来れば、詳述の方を主体に。

業務経歴は、出来ればすべての行を埋めるようにしたい。

- ③ 願書作成はスピーディーに終えて、試験問題に注力すべきと思う。
-以上- 次回は農業部門筆記（必須科目）H23 レビュー